

ちょうふの自然だより

ちょうふ環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org> 発行部数：1000部

2019.2



1958年狩野川台風直後の野ヶ谷の水田
(馬部誠一氏撮影)

真中に流れるのが入間川（今の野ヶ谷通り）。普段はもっと低い位置に水面があるのですが増水して水田に水が溢れ出しています。恐らく諏訪神社の少し北から東南方向を望んで写しているのではないかと思います。遠くに見える鉄塔は現在のものと位置は変わらないとの事なので、そこから撮影場所を推測したいと思いましたが、建物が密集して建っているこの位置関係で鉄塔を認めることはできませんでした。



現在の諏訪神社の北側から野ヶ谷通り東南方向を望む。

調 布市に越してきて15年目に
入りました。調布市民になっ
た当初から不思議に思うことが一
つ。市が出しているハザードマッ
プを見ると、近くの野ヶ谷通りが
浸水危険エリアの対象となってい
るのです。多摩川から遠く離れた
この通りが何故？ 確かに名前の
通り、両側が少し坂になった「谷筋」
ではあるのですが……。

その謎は景観市民検討会が作成
した立体地図を見て氷解しました。
野ヶ谷通りに川の青い
線が引かれ「入間川」
と書かれているので
す。「野ヶ谷通りは川
だった！！！」

野ヶ谷通りは川だった!!!

早速ネットや図書館で調べてみま
した。それによると、かつて野ヶ
谷通りには川が流れており（かつ
ては大川と呼ばれていた）、その両
岸には田んぼが広がっていたそう
です。川は現在の深大寺東町8丁目
あたりを水源として西から東に流
れており、「ここがかつては川だった」
と分かれるところはありません。

源流地に行ってみました。深大
寺東町8丁目13に「入間川（大川）
源流地跡」の碑が建っています。
なんの変哲もない住宅街で、水溜
まりすらなく、こんな所から水が
湧き出で川になっていたとは想像
が

れ深大寺東町3丁目を経て三鷹市
中原に入ります。その後東つつじヶ
丘で甲州街道と交差し若葉町を南
下し最終的には野川に注ぎます。
東つつじヶ丘からは、今も入間川
として川筋を見ることが出来ます
が、源流から甲州街道までの間は、
一部を除きほとんどが暗渠となっ
ており、地震（安政の江戸地震）
の影響で水が湧かなくなっ
たこと、とう
ろろまで。湧水不足問題に加え、
時代は開発ブーム、耕作面積のそ
れほど広くない田んぼは農地から
宅地開発に転がられてもそれは
いたし方ない事でした。田んぼは
ほとんど埋め立てられ戸建住宅が
建設され今の景観が出来上がります。

だにできませんが、かつての地名
が諏訪久保（窪）と呼ばれていた
事から想像すると、元は湧水の湧
く湿地だったのでしょうか。この水
源と深大寺東町6丁目の湧き水を
合わせて入間川（大川）をなして
いたようですが、そもそも水量は
それほど多くなく、1855年の
地震（安政の江戸地震）
の影響で水が湧かなくなっ
たこと、とう
ろろまで。湧水不足問題に加え、
時代は開発ブーム、耕作面積のそ
れほど広くない田んぼは農地から
宅地開発に転がられてもそれは
いたし方ない事でした。田んぼは
ほとんど埋め立てられ戸建住宅が
建設され今の景観が出来上がります。



源流地に
建つ記念
碑（深大
寺東町8
丁目13）



1948年7月26日撮影 航空写真（国土地理院）
入間川沿いに水田が広がっているのが分かる。

メリカ軍撮影）では、川筋を挟ん
で田んぼが続いている姿を確認で
きます。しかしこれも1960年
ごろまで。湧水不足問題に加え、
時代は開発ブーム、耕作面積のそ
れほど広くない田んぼは農地から
宅地開発に転がられてもそれは
いたし方ない事でした。田んぼは
ほとんど埋め立てられ戸建住宅が
建設され今の景観が出来上がります。
先述の国土地理院の航空写真
の1963年のものでは、埋め立
てが進行し、野ヶ谷通りらしきも
のも完成し今の野ヶ谷交差点より
下流部分にはすでに多くの住宅が
立ち並んでいます。

冒頭に書いた浸水の話に戻りま
す。大雨になると南北の大地から
谷筋にあたる入間川に水が流れ込
み、さほど大きくない川は容易に
増水したようです。1958年「狩
野川台風」直後の水田の写真が残っ

ていますが、中央に走る人間川が溢れ左右に広がる水田が水浸しになっています。この状況（大雨後の雨水の流入）は宅地化が進んだ後も同様だったようです。昔から東町にお住いのTさんは若いころ消防団に所属しておられ、台風で野ヶ谷通りが浸水したため今の野ヶ谷交差点近辺にボートを出して救助活動をした経験があるとか。ご記憶から計算すると1972年の台風6号もしくは1976年の台風17号の被害ではないかと思われます。今は排水能力も改善され私の知る限りでは浸水被害の話は聞きませんが、かつてのリスクが今のハザードマップに反映されて冒頭の状況になっているのでしょう。

ささいな疑問から、川の話、水田の歴史などを知ることが出来ました。ほんの60年ほど前まではこの野ヶ谷通り沿いには今では全く想像もできない風景が広がっていた事は驚きです。変ってしまうことの良し悪しを言うつもりはありませんが、かつてそういう暮らしがあった事を知っていれば今後、残すべきものと変えていくものを判断する際の参考となるのではないかと、そう思うのです。

中原彰子

参考文献

調布市教育委員会「調布の古道・坂道・水路・橋」(平成13年)
調布市浸水風害箇所一覧
(調布ホームページより)

写真提供

馬部久夫氏

最

近は目にするのが少なくなくなったが、節分の日に鰯の頭やダイズの殻と一緒にヒイラギの枝を門口に挿し、邪鬼を封じる魔除けとする風習がある。この風習は地方により違いが見られ、扉にヤツデの葉を貼り付けたり、鰯の頭の代わりにトベラの果実を添えたりする地域もある。

邪鬼は節分の夜にやってくると信じ、戸口を閉め、

花の履歴書

52

戸部英貞 絵・文

ヒイラギ(柊)
モクセイ科



Osmanthus heterophyllus

疼は「ひひらぐ、うずく」という痛む事を表す言葉で、葉に刺があり、触れると疼痛を感じる木の意味で名付けられたものだが、老木になるとヒイラギの葉は刺がなくなり全縁となる。

属名の *Osmanthus* は「芳香のある花」の意味で、キンモクセイやギンモクセイなどと同じ仲間、モクセイに遅れ、晩秋から初冬に白い花を咲かせ、ほのかな香りを発散させる。

モクセイ科の植物とモチノキ科の植物は葉が似ていることから混乱が多く、クリスマスの装飾に使われ、葉に刺がある赤い実のなるセイヨウヒイラギやシナヒイラギ(ヒイラギモチ)はヒイラギの名があるがモチノキ

(*Illex*) 属で、一方ネズミモチ、トウネズミモチはモチノキの名があるがモクセイ科の植物だ。

モクセイ科の植物は花が白や黄色で美しく、香りの良いものが多いが、果実が紅くなることはなく紫黒色のものが多い。それに対しモチノキ科は緑白色の花が目立たないが、果実の多くは赤く色付き、花が無くても区別ができる。

冬のお客様

ジョウビタキ

スズメ目ツグミ科(ヒタキ科)

12月始めたかと思う。近所からヒッヒッヒッと高くて澄んだ鳥の声がした。外へ出てみると樹上の小鳥に白い紋が見えジョウビタキと判明。調べてみるとこの声は地鳴きといって、遠い中国東北部やロシアから来て降り立った日本での縄張りを主張しているらしい。「そうかーあれがヒタキ(火焚き)」という火打石をたたいた音からきた名前ということなのか」



その後我が家の庭にジョウビタキのメス(オスより地味な色合い)が度々訪れるようになる。午前中に見かけることが多いのだが、彼女が餌(木の葉や虫)

を求めて見回る縄張りにはほんの100〜200mらしい。尾っぽを小刻みに動かし、小さめの体(スズメよりやや小さい)のさらに細くて小さい嘴で時々芝の上をつつく。日本で繁殖することは少ないようだが次のシーズンも是非またこの地へ。

(鍛冶)
※野鳥写真家、叶内氏の話では今シーズンの冬鳥(大型を除く)の飛来は今までに少なくない(世界的にも)とのことだが原因は不明。

入間・樹林の会

■11月18日(日)「晴れ」

参加8名

台風24号後の樹林地の巡回。シラカシの太木が隣の民有地から倒れてきて被害の大きさと自然の猛威に圧倒された。市職員が事前に倒木や落枝の片づけをしてくれていたのが作業ははかどった。大量の落枝等を集めて林内の見通しをよくした。

■12月16日(日)「晴れ」参加9名

入口シラカシのムラサキシキブの実の鈴なりに感嘆。11月に続き落枝を集めた山の移動や落ち葉だめの背後斜面に粗朶柵をつくり片づけ、林内がすっきり気持ちよくなったとの感想。ツバキの森の倒木・落枝等の片づけは今後の課題。

■1月20日(日)「晴れ」参加14名

シンボルツリーのシラカシに全員で安全祈願。シラカシの倒木や割れた幹を確認し植生調査を行った。プチ違いはタブノキ・マテバシイ・ユズリハ、すべて常緑で全縁の葉、葉の裏が粉白色がユズリハ、マテバシイは主脈に顕著な特徴がある。(安部)



集合写真



シラカシと割れた幹



見事なムラサキシキブの実

カニ山の会

■11月10日(土)「晴れ」

参加5名

引き続き台風での風折枝の処理2本。

■12月8日(土)「曇り」

参加8名

今回は2本の太枝処理。男性陣は掛かり枝を順次処理しながら核心部に迫るが、予想に反した枝の動き



台風で折れた太枝処理

や高所の枝へのロープ掛けなど難しい作業の連続であった。全員安全に作業を終えることができた。残り1本。

午後には数人がカニ山全体の保全管理計画策定に向けた調査報告・意見交換会に参加。

■1月12日(土)「曇り」参加14名

山開きと新年会。どんよりとした空からパラリとみぞれ。冬のらしい天気。台風で折れた幹の枝をどっさり使ってカマドで鍋料理(持参の材料はなんでも可)。これで少しは林内が片付いたか。(K&K)



新年会

若葉緑地の会

■11月11日(日)「曇り」

参加5名

緑地と周辺道路の清掃。10月の台風24号で幹が折れて隣の木に寄りかかっていたアスギを委託業者



に伐採してもらった、その残材の後片付け。例年10月に咲くホトトギスの花が今年は遅く、ようやく盛り

■12月9日(日)「曇り」参加5名
第2広場(緑地下段)の落葉かき。落葉だめが満杯になった。草刈。桜広場(緑地上段)で増え過ぎた感



のあるハラン十数株を、近ごろ表土流失が著しい第一緑地の崖際に、土留めとして移植。

■1月13日(日)「晴れ」参加6名

緑地内外の清掃。早春のスミレ群落の出現に備えて、青空広場などで草刈。入口脇の花壇の土起こし。新年最初の活動日なので、木質ペレット用口ケックストープ(調布エネ協から借用)で甘酒を温めて乾杯した。(大村)



若葉の森3・1会

■11月4日(日)

「曇りのち小雨」参加7名

台風24号で被害にあったコナラ、ヒサカキの幹、大枝を活用して、コンポスト柵の補修、中央通路土留め補修。落葉かき。

緑地植生復元計画について、10月24日の市との打合せ内容が報告された。植生強化と緑地活用を考慮したゾーニングのプランを作成



コンポスト柵補修杭打ち

し、市と計画見直しを話合う。なお、六別坂寄りの浸透枳設置は市が判断する。

■12月1日(土)「晴れ」参加5名

みどりの国分寺崖線ウオーク2018の運営に協力。第1・第2緑地はコースの一部。

■12月2日(日)「曇り」参加9名

11月に引き続き、台風24号被害樹木の幹、大枝を活用して第1緑地では、コンポスト柵補修、中央通路土留め補修、流土対策土留め設置。六別坂落葉かき、落葉溜めに投入。第2緑地では、階段補修、及び第1緑地側階段横押さえ土留め、シュロとアカメガシワを多数伐採。(NOK)



シュロとアカメガシワ伐採



ヒヨドリジョウゴの実とアカメガシワ

凸凹森の会

■11月25日(日)「晴れ」

参加23名

恒例の秋のイベントは、クズをつるを使ったりリース作りです。女性や子どもたちは、日だまりで思い思いにリースを作ったり、かごを編んだりして、のどかなひとときを楽しみました。

山栗の枝を剪定してくれました。



■12月1日(土)「晴れ」参加9名

「みどりの国分寺崖線ウオーク」にスタッフとして参加しました。コース中ほどのつつじヶ丘公園を中心に、誘導や安全要員として参加。公園内の休憩所では凸凹森で採れた梅のドリンクを提供し、歩き疲れた人たちもほっとひと息。凸凹森の会のメンバーにとっては馴染みのない場所での活動でしたが、仲間の絆も深まり、なかなか面白いイベントでした。

■1月27日(日)「曇り」参加4名

90代というお元気な男性が仲間入り。真冬の森は一見何もなければ、年間の活動の様子を説明しながら、森の中を案内しました。(石原)



今年度最後の『水辺の楽校』イベント「バードウォッチング」を実施しました。天気は晴れで穏やかな陽気でした。場所は、二ヶ領上河原堰の上流部分。

一部の学校の授業日と重なったのと、インフルエンザの影響もあり、参加者は保護者を含め37人と少な目の開催となりました。

スタッフは14人でしたのでその分手厚いサポートが行え、参加者の方々は話を真剣に聞いたり質問したりしていました。

二ヶ領上河原堰下は、護岸工事

水辺の楽校 野鳥観察会

1月19日(土)

【本日観察できた野鳥】

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イソシギ、トビ、キジバト、メジロ、カワラバト(ドバト)、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ユリカモメ、セグロカモメ、カワセミ、コゲラ、カシラダカ、(34種)。見てない方は図鑑などで確認してみてくださいね。

外来種

ムネアカハラビロカマキリ

冬晴れの日、カニ山に散歩に行きましたら、東樹林のウグイスカグラの枝先に、今問題になっている外来種のムネアカハラビロカマキリの卵しゅうを見つけました。この卵しゅうは昨年春に羽化したようで空になっていますが、これが羽化したとなるとカニ山に多数生息している可能性があります。



ムネアカハラビロカマキリは、在来種のハラビロカマキリに似ていますが、より大型になり胸部分の裏側が赤みを帯びます。在来のカマキリ類の卵しゅうはぴったり枝や壁などにくっついていますが、ムネアカハラビロカマキリの物は下部分が浮くという特徴があります。在来のハラビロカマキリと同じく樹上に住み、セミなどを多く食べるそうで、ムネアカハラビロカマキリが増えた場所ではハラビロカマキリが全く見られなくなってしまうとの報告があります。ごく普通に身近に暮らしている、ちょっと太めで愛嬌のあるハラビロカマキリに危機が迫っています。(カニ山の会 石森)

で河原にも近づけない状態で昨年まで観察できた場所などで活動もできず、堰上の限られた範囲になりましたが、ユリカモメ、オオバン、キンクロハジロなどは割と間近で観察できました。少し上流側の対岸近くにはカモ類が多く休んでおり、フィールドスコープで覗くと大きく見える姿に皆感動していました。岸辺では水鳥以外の野鳥も結構見ることができ、合計で34種類。

来年度の水辺の楽校第1回『開校式&ガサガサ』は5月ごろを予定

定しています。スタッフとしての参加も待っております。(水辺の楽校サポーター 池ノ内)



雑木林保全活動のスケジュール

入間・樹林の会

毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 3月3日(日) 9:30~11:00 子ども野鳥観察会
- 3月17日(日) 9:30~12:30 保全活動
- 4月21日(日) 9:30~14:30 保全活動
植生調査、入間町2丁目樹林地観察会

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 3月9日(土) 10:00~15:00
- 4月13日(土) 10:00~15:00

若葉緑地の会

則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 3月10日(日) 9:30~12:00
- 4月14日(日) 9:30~12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 3月3日(日) 9:30~12:00
- 4月7日(日) 9:30~12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

- 3月31日(日) 9:30~12:00
- 4月28日(日) 9:30~12:00



※上の5団体の保全活動問合せは、調布市役所「緑と公園課」Tel. 042-481-7083 へ

◆「ちょうふの自然だより」は、カンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

◆本誌は、地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)、おぎもと内科クリニックなどに置いています。

本誌の「置き場所&応援カンパ」募集中です! ◆会員募集! 年会費 ●会員:1000円/ ●サポーター会員:500円 郵便振替00150-9-765663 ちょうふ 環境市民会議

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問い合わせには当方の返信が届かない場合があります。

この「ちょうふの自然だより」は、ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。http://chofu-kankyo-shimin.org